



羅針盤

No.33

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当

師走です。波乱つづきの一年が終わろうとしています。東日本震災の翌年ですから、良いことが多い年になることを祈っていましたが、この12ヶ月の間には、やはり悲喜こもごもの事象がありました。良いこと楽しいことは金環食が見られたこと、ロンドンオリンピックでの選手の活躍、スカイツリー開業、そして再生医療の実現に道を開くiPS細胞(人工多能性幹細胞)開発が認められて、山中教授がノーベル賞を受賞されたことなど。一方、領土問題などの政治的に難しい出来事も起こり、この解決には長い時間がかかりそうです。

しかし、何といても震災復興が遅々として進まないことが、来年に向けての大きな課題でしょう。新しい政権が来年に光の道筋をつけてくれることを祈らずにはられません。

その来年に身の回りで既に決まっていることは、増税、値上げです。

私達が身近にできる対策は、廃棄物を出来るだけ分別することでしょう。ひと手間かけることで経費節減になります。

東港金属は、先人より伝わる「もったいない」の心を仕事の上で実践し、工夫努力を続けております。非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理等、皆様の身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



★羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの12月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 11月の鉄相場は、動きました。指標になる東京製鉄宇都宮特級価格22,500円/トンでスタートし、トントン拍子に相場が上がり、11月末時点で、25,000円/トンになりました。原因は、輸出が上がったため国内の電炉・高炉が価格を上げたためです。しかしながら、上げ止まりと思われず。12月は横ばいでしょう。
- 銅** → 考察) LME7,800ドル/台、国内銅建値680,000円/トンでスタートしたものの、3日には、いきなり165ドルもLMEが下がり、国内銅建値も650,000円/トンに下がりました。しかしながら、徐々に回復し11月末の時点では、LME7,900ドル/トンを突破しました。12月は、米国の「財政の崖」を巡る協議や、ギリシャ財政の問題等がある為、まだまだ変動すると思われず、少しは上がると思います。
- アルミ** → 考察) 11月は、LME1,880ドル/トン台でスタートし、少しずつ上がり、2,000ドル/トンをキープして終わりました。12月は、自動車の輸出も上がると思われずで価格は、上がるでしょう。
- プラスチック** → 考察) 11月同様、12月も期待できないでしょう。中国の需要が上がらないと厳しいと思われず。

11月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	×
銅	○	プラスチック	○

★羅針盤

分別回収の意義

環境保全の重要性が世界的に認識される中で、資源が乏しく、その大部分を海外からの輸入に依存している我が国の現状を思う時、快適な生活環境及び健全な経済発展を長期的に維持していくためには、限りある資源の有効利用を一層推進することが重要な課題となっています。

環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードは皆様よくご存知の3Rです。Reduce(リデュース=廃棄物の発生抑制)、Reuse(リユース=再使用)、Recycle(リサイクル=再資源化)は国の廃棄物処理基本方針である、廃棄物の減量その他、その適正な処理に関する施策でもあります。

できる限り廃棄物の排出を抑制し、次に廃棄物となったものについては不適正処理の防止とその他の環境への負荷の低減に配慮しつつ、適正な循環的利用(再使用、再生利用、熱回収をいう)を行った上で、なお適正な循環的利用が行われないものについては、適正な処分を確保するとされております。

最終処分場のひっ迫を考慮すると、排出事業者の役割としては、排出量の削減が第一ですが、排出物を事前に分別することにより、排出量の削減だけではなく、処理費も削減され、環境と経済の双方にメリットが生まれることになります。

現状の産廃は混合物も多いので、分別排出できないというものもありますが、最終処分量を削減するためには、現場分別を徹底することによって、排出量を削減することが重要です。例えば建設混合廃棄物については、現場分別の徹底を試験運用した結果、廃棄物の排出量が減ることにより、処理費も大きく削減されたとの報告があります。

業態により分別品目の設定や実施方法(回収容器、設定場所、分別の徹底方法、現場作業員への周知・教育他)は違うと思いますが、排出事業者への処理費(収集運搬費、処分費)の削減となります。ひと手間かかりますが、排出までの流れを作って、経費削減=利益確保、そして環境にも貢献することが出来ます。

なぜやめないかって？ 当時は辞めるなんて言葉は親にも言えず、怖くてそんな気持ちになれませんでした。親は子供がプロ野球選手になることを子供以上に夢見ていたんでしょね。今では考えられない時代でした。

次回より、練習の様子、大会結果、そして中学生時代をお話したいと思います。



溝口 仁(営業部)

私の野球人生

(第1回)

今月より隔月連載させていただきます千葉工場営業の溝口です。東港金属に入社して4年が経ち、年齢も46歳となり、人生の折り返し地点に来ています。

そんな私の今までを「私の履歴書」風に回顧して、ご紹介させていただきます。

さて、幼い頃から野球好きの私は、小学校4年生の時に地元の調布リトルリーグに入団し、野球人生がスタートしました。当時、調布リトルリーグは荒木大輔さんがエースで世界一になった年であり、テレビ、雑誌、新聞とマスコミの方の取材も多く、ニュースで取り上げられた結果だと思いますが、募集人数120名のところ、400名の入団希望の小学生が集まり、急遽テストでの入団となりました。

テスト内容は、キャッチボール、遠投、50m走でした。合格基準は覚えておりませんが、募集人数120名の中に無事入ることができ、ここから野球人生が始まりました。

練習はAチーム(一軍)、Bチーム(二軍)、マイナーリーグ(4年生までの一軍)、その他に分かれ、Aチーム、Bチームは毎日の練習、他は土曜、日曜の練習でした。

その他チームの100名以上は、1チーム15名ぐらいに分かれ、そこから上手い選手をBチームに上げ、Bチームで鍛え、選ばれた者がAチームに上がるというシステムです。

練習はかなりハードで半数はやめてしまいます。当時はスパルタ教育の年代ですので、監督、コーチから殴られるのは当たり前でした。逆に殴られない選手は諦められた選手と捉えられていて、親からも練習後、今日は殴られたの？と聞かれるぐらいで、なぐられない日は親から怒られてた時代でした。

私は小学校4年生の時にマイナーリーグに入団し、5年生でAチームに選ばれ、学校の授業が終わると、自転車練習場所まで平日、休日休みなく毎日通う日々が続きました。調布リトルリーグは建設会社の社長がオーナーで、社長の自宅敷地に雨天練習場があり、雨の日も練習が出来るので毎日が地獄のような日々でした。それに休むとすぐレギュラーから外されてしまい休むことができない為、大会がある時は運動会を休んだこともありました。

試合なども、当時は世界一になった翌年で全国から練習試合のオフアがあり、毎週九州から、関西、名古屋、甲信越、北海道など遠征が続きました。もちろん自費です。当時の学校は土曜日もあり、早退して遠征に参加し学校ともめたこともありました。試合ではミスも負けることも許されず、負けた時には2~3時間ぐらい平気で走られました。水を飲んではいけなかった時代でしたので、まさしく地獄でした。